

ラーバ(溶岩)の島



ビジネス学部教授

小池弘道

ラーバの島に到着。コナ空港から、ホテルへバスで向かった。空港を出ると、道路の両側は真っ黒。初めてみる異様な景色だった。一面がラーバである。噴火のできた島だと語りかけているようだ。

ホテルに着いて、部屋へ続く廊下を歩いていると雄大な山が見える。ハワイ島には、富士山よりも高い火山が2つもあると聞かされた。どちらも4000メートルを越えているそうだ。この島の面積は、四国の半分程度しかないという。まさに火山島である。

異常気象で3日目から雨。数日後に止んだので、一番の名所といわれるキラウエア火山へ行く。レンタカーで2時間半走り、目的地まであと30分ほどの地点で、また雨が降り出した。それでも車を進めると、道路が閉鎖になっていた。予想外の大雨で、トラブル発生ということらしい。がっくり疲れてホテルへ戻る。

次の日は、ホテルでくつろぐことにする。テニスコートへ出掛けると、中年の大病で陽気なおばさんが受付にいた。前日の話をすると、異常気象で運が悪かった

ねと慰めてくれた。そして、少し考えていた。それから、それではコト代は無料にしてあげよう、何度でもおいでと言われた。妻と顔を見あわせ、信じられないと首をひねる。本当に無料でいいのですかと聞きなすと、女神ベレ火山の神)はいい神様。心が大らかなのさ、と屈託のない笑顔とハッハハの音が返ってきた。お金以上に心遣いがうれしかった。

その翌日、キラウエア火山に再度挑戦。今回は天候に恵まれ、無事に国立公園に到着した。そこには、見たこともない巨大な噴火口が横たわっていた。ビッグ！ビッグ！隣の人の声だった。まさに壮観だ。それからラーバが海に落ちるところに向う。海岸近くで道路は不通となり、車を降りて徒歩で進む。しばらく歩くと、灼熱の帯が海に注ぎ、壮大な白煙を上げている。すごい！大自然が作

た途方もないスケールの景色に見とれる。ホテルに戻るとコンシエールから、感想を聞かれた。すごい、初めて見たよと答えると、隣のホテルもすごいよ行ってみたらと言われる。

次の日に、早速訪問する。ウーン、これが1つのホテル？ エッカイ！よく作つたね、ラーバの上に！敷地の広さは東京ドームの約11倍と聞かされた。敷地内はグライダーやモーターで移動。ラグーンでイルカも飼われている。まさに巨大リゾート。規模の大きさと、その中で面白さを堪能した。

充分に好奇心を満足させてくれた旅だった。大自然の雄大さに驚き、住んでいる人たちの大らかな心をうれしく思ったと共に、厳しい自然をも快適なリゾート地にしてしまう、人間のたくましさにかたやあきれ、かたや感動した。